■金森徳次郎　　官僚・憲法学者。新憲法草案に関する政府側の答弁をほとんど一手に引き受け，その成立に貢献した。
かなもりとくじろう
帝国大学始・1886＝　　愛知県名古屋で，建具商金森新七の次男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 3歳：

日清戦争始・1894＝ 8歳：
日清戦争終・1895＝ **9歳：**

愛知一中を経て，
日露戦争始・1904**＝18歳：**
日露戦争終・1905＝19歳：
一高英法科を首席で卒業。

大逆事件判決1911＝25歳：**_文官高等試験に合格し，**
明治天皇没・1912＝26歳：東京帝国大学法科大学法律学科を，銀時計組で卒業。大蔵省を経て，
大正政変・・1913**＝27歳：**
第一次大戦始1914＝28歳：**_内閣法制局に入り，**

_本務の傍ら諸大学において憲法を講義。

原敬首相暗殺1921＝35歳：
水平社結成・1922**＝36歳：_主著「帝国憲法要綱」。**

満州事変・・1931**＝45歳：**

帝人疑獄事件1934＝48歳：**_岡田内閣の法制局長官となるが，美濃部達吉が天皇機関説論者として軍部その他の右翼分子に排撃されるに伴い，同様の論者と見られて批判を受け，**
二二六事件・1936＝50歳：**_辞職。**
日中戦争始・1937＝51歳：

大政翼賛会・1940**＝54歳：**
日米開戦・・1941＝55歳：

敗戦・・・・1945＝59歳：**_<敗戦>後，**
新憲法公布・1946＝60歳：***第1次吉田内閣において国務大臣に就任。いわゆる憲法議会(第90帝国議会)においては，新憲法草案に関する政府側の答弁をほとんど一手に引き受け，その成立に多大の貢献をした。当時の衆議院は，戦後初の総選挙により構成されたものであり，与党の保守系のほか，社共などの革新勢力も進出していたため，新憲法成立に必要な3分の2以上の賛成を得るためには，多くの困難があった。特に国体護持の立場にあった与党議員に対し，天皇が象徴となっても国体の変更をきたさないことの説得に苦心し，わが国体の本質は，国民が天皇をあこがれの中心として国を成していることにあり，天皇が政治上の権力を有するか否かは，国体の要件ではないと説明した。**
新憲法施行・1947＝61歳：***新憲法解散で，旧憲法下で天皇から組閣の大命を受けて発足した最後の内閣が終わるとともに退任。**
極東裁判決・1948＝62歳：**_国立国会図書館の初代館長となり，その発展に貢献。**
三大事件・・1949**＝63歳：**
著作・講演などの文化的活動によってもひろく知られた。
独立回復・・1951＝65歳：
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958**＝72歳：**
美智子妃・・1959＝73歳：**_館長在職のまま，没した。**

官僚･政治家･帝国憲法制定作業･民間対米世論指導

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，